

令和5年度学校自己評価システムシート (県立大宮工業高等学校 定時制課程) s 32

目指す学校像	心豊かな人間を育成し、生徒の夢を実現する学校 ～小中学生に楽しさと憧れを！ 在校生に好奇心と自信を！ 卒業生に豊かさと誇りを！
重点目標	1 学習意欲と基礎学力の向上を図る。 2 基本的生活習慣の確立を図る。 3 自己の適性を知り、希望進路を実現する。 4 地域社会に開かれた学校づくりに努める。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	14名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 4 日 現 在)		
年 度 目 標	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	【現状】 授業規律が保たれており、生徒が安心して学習する環境が整っている。 【課題】 基礎学力の向上へ向けて、学習に対して苦手意識を克服させ、継続的な家庭学習習慣を身に着けさせる必要がある。	学習意欲の向上	①1人1台端末に対応した環境整備を実施する。授業形態に対する意識調査を活用し、実態に応じた指導方法や活動例を協議する研修会を実施する。教科横断的なプロジェクトや活動を1つ実施する。(マイスター・ハイスクール事業連携) ②ICT端末を活用し、各授業の復習や定期考査へ向けた学習など「継続的な家庭学習」に対する意識向上や習慣の定着に繋がる環境づくりに着手する。休業課題・実力テストを通じ、生徒の現状を引き続き正確に把握する。	3学期(1月)生徒アンケートで「本校の授業の内容がよくわかっている」・「本校の授業を通じて、学習に対する意欲が向上している」が1学期(7月)より上昇したか。	【生徒アンケート結果より】 授業内容がよくわかっている生徒は92%と高い水準を保った一方で、学習意欲が向上している生徒は7ポイント下がった。職員のICT基礎力向上研修の他、積極的な授業参観・意見交換が年間を通じて行われ、職員のICT活用がより多くの場面で見られた。	B	学習意欲の向上のために、ICT環境や授業形態に関して生徒の意識調査を行い、状況を把握する。それを活用し、更なる環境整備(1人1台端末の対応)と教職員のICTスキル向上とICT活用の拡大へ繋げる。
		生徒一人ひとりの基礎学力の向上		3学期(1月)生徒アンケートで「予習・復習等の家庭学習に取り組んでいる」が1学期(7月)より上昇したか。90%の生徒が課題の提出を行ったか。	【生徒アンケート結果より】 1学期より9ポイント下がり、44%であった。家庭学習に対する意識を向上させる必要がある。課題考査に対する個票を作成しフィードバックを行い生徒の意欲向上に努めた。	B	授業の復習や定期考査へ向けた継続的な家庭学習に対する生徒の意識向上のため、Google Classroom等のICTを活用した取組・環境づくりを推進する。
2	【現状】 ルールを守り、何事に対しても真摯に向き合う生徒が多い。一方基本的生活習慣の未確立や環境調整能力の不足により、出席状況に不安定さが見られる。 【課題】 一人ひとりの生徒に対する具体的な支援と学校・家庭・外部機関等の専門家との連携の充実させる必要がある。	基本的生活習慣の具体的な把握及び確立を図る取組	①SC/SSWとの連携回数を増やし、支援ケースの検討・共有・蓄積を図る。積極的な情報提供を通じて、生徒が自身の状況等を相談できる支援的な環境を作る。 ②改善を要する生徒の要因を多角的に分析する。結果をもとに、家庭と共に生活習慣や環境の調整を行う。	①生徒・保護者に対する支援情報の提供回数が増したか。生活習慣確立のための指導に満足しているか。 ②3学期(1月)生徒アンケートで「出席状況は良好で、遅刻・早退もしていない」が1学期(7月)より上昇したか。	SCや外部機関と連携の下、面談時などに生徒と保護者へ相談窓口や支援情報の提供を積極的に行った。 【生徒アンケート結果より】 1学期より8ポイント下がり、68%であった。各分掌や各年次と連携し、個々の要因を確認し、状況に応じたアプローチを行った。	B	多様な生徒に対応するため、生徒支援に関わる活動を推進する。SCや外部機関と連携の下、生徒が自身の状況等を相談しやすい環境を構築し、具体的な支援体制の検討と共有を図る。
		5S活動(整理・整頓・清潔・清掃・躰)を意識した規範意識の醸成	①5S活動(特に整理・躰)における意義や知識・理解を深めるための対話行事(生徒・教職員・企業)を検討・実施する。(マイスター・ハイスクール事業連携) ②自己表現を中心に、社会から必要視される人間性向上に繋がる肯定的な指導の充実を引き続き図る。	①5S活動について理解し、自ら取り組む意識が醸成されたか。 ②生徒指導案件は減少したか。	教職員が率先垂範して整理・整頓に取り組み、生徒も高い水準で手洗いから実習授業での整理・整頓までよく習慣化され身に付いている。 生徒指導案件はあったが、不注意や軽率なものが数件あった。	B	5S活動における教職員及び生徒の意識を向上させるための活動を検討する。 生徒の豊かな心を育む為、在り方生き方教育や道徳教育の更なる充実を図り、積極的な生徒指導の充実へと繋げる。
3	【現状】 自分の適性が正確にわからず、進路の目標を見出せない生徒が多い。 【課題】 生徒の発達段階と適性に合った進路目標を設定し、実現させる必要がある。 自身の進路を考える上での十分な情報と経験する機会を提供する必要がある。	発達段階と適性に合った進路目標の設定	①行動特性調査を年度当初・年度末に実施する。自身の具体的な特性をより明確に把握し、進路目標の設定に繋げ、継続的なキャリア教育の充実を図る。(マイスター・ハイスクール事業連携) ②従来のガイダンスに加え、各企業や全日制主催の講演会などの情報提供の機会増加を図る。得た情報や経験を踏まえ、自身と向き合う活動を実施する。	①進路アンケートで年次ごとに、自分の適性、能力を把握できたか。「卒業後の進路」が「決まっていない」の生徒が20%以下を継続できたか。 ②就職での業種区分及び進学での専攻分野を理解できたか。	【進路アンケート結果より】 3年次修了時点で卒業後の進路が決まっていない生徒は21%であった。一方でマイスター・ハイスクール事業を中心に年間で複数の企業との連携や博物館との連携を通して進路意識の向上を図った。また、社会人基礎力として「5つの力」を設定し、自分自身について考える活動を行った。	A	3年次修了時点で「卒業後の進路が決まっていない」と回答する生徒割合20%以下を目指す。「5つの力」や各アンケート、外部から得た情報等を活用し、生徒が自分自身と向き合い、進路を深く考える機会を増やす。
		進路決定率100%の継続	①卒業生や産業実務家教員との連携を深め、より社会をイメージできる情報や経験に触れる機会を充実させる。各活動で育成できる社会人基礎力を生徒へも示す。(マイスター・ハイスクール事業連携) ②進路実現に向けて就職者・進学者へ計画的な補習等の指導を実施する。	①課題研究・授業・LHRを含め、社会人基礎力を育成する機会を複数回設けられたか。 ②進路決定率100%が実現できたか。	SST・社会体験・課題研究・各講演会やLHR等の活動の中で、各個人の発達段階に応じて社会人基礎力を育成できるよう工夫した。今年度卒業見込生徒のうち、就職および進学を希望する全員の進路が決定した。	B	社会人基礎力向上の取り組みを継続して実施すると共に、自身の特性や目標を発見できない生徒へのアプローチ方法を検討する。職業人との対話等の活動を通して、社会に出た後について考える機会を増やす。
4	【現状】 情報発信を継続することで、地域との連携が育ちつつある。 【課題】 現在の情報発信の内容や方法を充実させる。加えて、より広い範囲の地域への情報発信を行う必要がある。	積極的な学校情報の発信	①「今必要な情報」をテーマにHP・紹介ページの更新や広報物の充実を図る。より多くの目に届く広報媒体を検討する。 ②「生徒の声やリアルを届ける」をテーマに実際の成長状況を各中学校へ伝える方法をより充実させる。	①日常的な学校の状況等について、HPでの情報発信の回数が昨年度を上回ったか。(R4年度63回) ②地域や中学校を対象に本校の具体的な情報を伝えることができたか。	HPでは授業の様子、行事、部活動などを生徒の声と共に57回発信した。地域の中学校PTAの要請に応じた学校説明会の実施、定時制の授業体験会や生徒の母校訪問を通じて広く本校の情報を伝えることができた。	A	中学校や受検生へのアプローチ方法について、より効果的な手法を模索する。また、教育活動等の発信についても研究を行う。 100周年記念事業へ向けて、学校と家庭、地域が連携した取組等を推進する。

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和6年3月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・学習への姿勢や家庭学習の意欲向上に様々な工夫や指導に努めていることがわかった。引き続き指導をして頂きたいと思う。 ・中学校時代に不登校だと数学や英語の基礎がないため、リスタート数学・英語はとても魅力的である。 ・2年次の途中(来年度のコースを選択する時期ぐらい)まで学びなおしの授業があるとありがたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣は、学校生活はもとより、社会生活の基本となるものである。5S活動等の習慣化については、引き続き指導して頂きたいと思う。 ・環境調整能力については、境遇が似ている子たちが集まっているので、互いに相手の気持ちを分かり合える可能性は十分あるのではないかな。 ・対面コミュニケーションが好きな子もいれば、苦手な子もいるため、Google Classroomで個別の相談をするなど、ICTを活用することで、幅広い生徒への支援ができるのではないかな。
<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の設定を支援し、目標の実現に向けた指導を積極的に行い、生徒の希望する進路が決定したことは素晴らしいと思う。引き続き指導をして頂きたいと思う。 ・生徒が興味を持つものは自分に接しているものだと思う。学校行事として社会人と接する機会が多くあると、その分だけ自分の知らないことに接することが増えて大変良いと思う。 ・社会人の基礎力を育てるために多くの体験が必要なこの時期に、たくさんの社会経験ができる場の設定があるのが素晴らしいことだと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・先日、本校定時制の生徒が県立自然博物館へ「ハチの家」を設置したと報道されていた。地域参加の一例として素晴らしいと思う。 ・中学の先生に定時制の事を知ってもらえたら、そこから中学生に伝わっていくのでは。例えば、中学の先生を招待して説明するのも効果的ではないかと思う。

